

不燃ごみ処理センターの火災防止対策をご紹介します

不燃ごみの中間処理を行っている不燃ごみ処理センターでは、処理過程で起こる爆発や火災を防止するための対策を実施しています。



京浜島不燃ごみ処理センター



中防不燃ごみ処理センター

火災のおもな原因

不燃ごみには、中身が残っているカセットボンベやライターが混入しています。ごみの搬出や破碎時の衝撃などで、爆発が起きたり、他のごみや設備に引火する火災が発生することがあります。

火災防止対策



散水車による散水



破碎物コンベヤ内

1 ヤードでの予防散水

不燃ごみはヤードとよばれる設備に集められますが、ヤードでの火災を予防するため、ごみや路面に定期的に散水を行っています。

2 防爆蒸気

破碎機内部では、鋼製のハンマーに不燃物があたる衝撃で爆発が起こることがあるため、破碎機の内部に蒸気を吹き込んで、酸素濃度を下げることで爆発を防ぎます。

3 破碎後の常時散水

破碎後のごみを搬出するベルトコンベヤでは、ベルトコンベヤを覆っているカバーの天井部分に散水装置を設け、常時散水を行っています。また、火災発生時には、検知器と連動して作動する消火用散水装置を設置しています。

4 ベルトコンベヤの難燃化

ごみを運ぶベルトコンベヤは難燃性の製品に順次交換をしています。難燃性ベルトは、自己消火性があり、炎から離れると鎮火することから、他の設備などへの延焼を防ぎます。